

熊本市歯科医師会会誌

第 3 4 号



ハミルトン牧場(ニュージーランド)

1980. 10

目 次

巻 頭 言

..... 熊本市歯科医師会会長	川 崎 正 士	2
..... 〃 副会長	吉 井 洋 一	2

勉 強 部 屋

ウ蝕象牙質の2層

東京医科歯科大学 総山孝雄教授の講演より	学術委員	堀 川 秀 一	3
----------------------------	------	---------------	---

展 望 室

○ 僻地巡回歯科診療

..... 熊本県衛生部医務課 歯科医長	福 田 正 純	5
----------------------	---------------	---

○ 熊本市で行われた64年前の歯科衛生展のお話

..... 熊本県歯科医師連盟長	大 関 英 明	7
------------------	---------------	---

茶 の 間

○ ふるさとの緑あれこれ	自然と文化を愛する会々員	村 山 豪	9
--------------------	--------------	-------------	---

○ 第12回かめる会展を見て思うこと	セルパン	正 木 忠 男	11
--------------------------	------	---------------	----

本 日 休 診

ソ連抑留記	東 部 2	坂 口 孝 至	13
-------------	-------	---------------	----

委 員 会 活 動

○ 第29回「母と子のよい歯のコンクール」熊本市選出

..... 口腔衛生委員長	関 剛 一	19
---------------	-------------	----

○ 補助者研修会記	学術委員	野 村 雄 幸	21
-----------------	------	---------------	----

○ パンダ見物	厚生委員会	厚 生 委 員 会	22
---------------	-------	-----------------	----

作 業 部 屋

総会報告			24
------------	--	--	----

告 知 板

新入会員紹介			33
--------------	--	--	----

巻 頭 言

熊本市歯科医師会会長 川 崎 正 士



冷夏とは申しまして毎日が雨、又は蒸し暑い毎日でございますが、会員の皆様には、益々ご健勝のことと存じます。

会長就任以来早や3ヶ月になりますが、その間参議員選挙におきましては皆様のご尽力により、熊本市も好成績を納めました事を厚くお礼申し上げます。

会務の運営も順調に遂行されておりますことをご報告いたしますと共に、今後も役員一同努力いたしますと共に、今後共会務の運営、会の発展のために、皆様のご協力の程を切にお願いいたします。

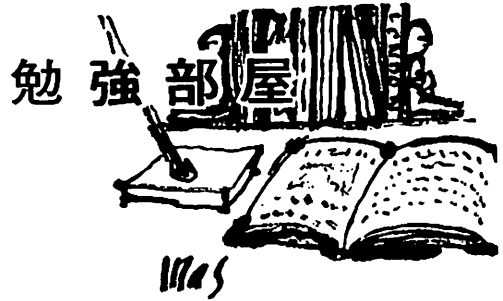
皆様のご健康をお祈りいたします。

熊本市歯科医師会副会長 吉 井 洋 一



任期途中で尊敬申し上げておりました前緒方益夫会長が逝かれ、心から御冥福をお祈り致します。

この度は川崎正士先生が会長に就任せられ、最適任だと喜んでおりました所、私ごとき者に副会長をやれとの仰せで私自身驚きましたが、任期半ばの改選であり、事業も進んでおりますし、各理事の先生方はそれぞれの分野で大いに手腕を発揮し、川崎会長の所信表明にもありました様に、事業の完遂の義務の為に共に頑張っていきたいと思ひます。今つくづく責任の重さを感じておりますが、会長を補佐し、会員の為に、微力ながら頑張りますので、どうかよろしく御指導ご鞭撻下さいませ様お願い致します。



ウ蝕象牙質の 2層の発見

東京医科歯科大学 総山孝雄教授の講演より

学術委員 堀 川 秀 一 記

人の歯の天然ウ蝕は長時日を経て徐々に脱灰されるので、その硬さは小窩の底部から正常象牙質に向って観察しても、硬さや色調に関する明瞭な2層の区別はないし、境界は認められない。そこで実験の結果、0.5%塩基性フクシンのプロピレングリコール溶液により成功した。1滴、断面にたらし、30秒後に水洗すると、ウ蝕象牙質の表層半分が真赤に染まり、その他の部分は全く染まらず、境界が実に鮮明であった。

A ウ蝕象牙質2層の組織化学

このような染色性の差が現われるのは、主として有機成分の影響と考えられる。すなわち、ウ蝕象牙質の断面に対して上記のフクシン染色とコラーゲン線維検出のマロリーアザン染色とを比較した。マロリーアザン染色は正常なコラーゲン線維のみを青く染め、コラーゲン線維が変質崩壊していると赤く染まる。組織化学的試案である。するとフクシン染色で赤く染ったところは、すでに真赤に染まり、フクシンに染まらなかったその下層は青く染まり両染色によって生じた境界は完全に一致していることが判明した。この結果、

(1)人歯の天然ウ蝕象牙質に2層の区別がある。

(2)その表層の第1層ではコラーゲン線維が変質崩壊しているが、その下層の第2層や正常象牙質ではコラーゲン線維が固有の組織化学的性質を保っている。(3)0.5%塩基性フクシンのプロピレングリコール液により、第1層は明瞭に赤染するが、第2層や正常層は全く染まらない。

B ウ蝕象牙質2層の電子顕微鏡像

(1)ウ蝕象牙質の第2層では、ある程度脱灰して無機成分が減少しているが、コラーゲン線維を中心とする有機成分も、アパタイト結晶として存在する無機成分も、正常象牙質と同様な形態および排列を保ち、その中に象牙芽細胞突起を含んでいる。

(2)しかしウ蝕象牙質の第1層では、コラーゲン線維がすでに崩壊し、無機成分のアパタイトも顆粒状結晶に変化して不規則に散在しており、象牙芽細胞突起は消失し、至るところに細菌が侵入している。

C ウ蝕象牙質2層の生化学

象牙質の再石灰化は、コラーゲン線維を基盤としてその周期構造の節にアパタイト結晶が付着して起るものであるが、分子間架橋が崩壊してコラーゲン線維が固有の構造を失っている第1層では、再石灰化は起り得ない。しかし第2

層では、分子間架橋が可逆的に前駆体に移行しているのみで、コラーゲン線維が固有の構造を保っているので、再石灰化が可能であると考えられる。

D フクシン液可染部を除けば感染象牙質は除ける。

(1)感染象牙質を除くために、急性あるいは悪急性のウ蝕では、フクシン液に赤く染まる象牙質を完全に除くべきである。

(2)濃い自然着色のある慢性ウ蝕では、その着色部を完全に削除すれば、感染象牙質はほぼ過不足なく除きうる。

(3)アマルガム充填下の金属イオンによる黒染部は必ずしも除く必要はない。

E ウ蝕象牙質処置のための指針

(1)ウ蝕象牙質第1層は、無機・有機成分ともに非可逆性に変性した死層であって、細菌が感染しており、生理的に再石灰化しえない層であるから、完全に削除せねばならない。

(2)ウ蝕象牙質第2層は、無機・有機成分ともに本来の性質を保ちつつ可逆的な変性をしている生層であって、細菌の感染がなく、生理的に再石灰化して元に戻りうる層であるから、極力保存しなければならない。

(3)0.5%塩基性フクシンのプロピレングリコール液の短時間貼布は、この第1層のみを明瞭に赤染し、第2層や正常象牙質層は全く染めない。したがってフクシン可染部のみを削除するのが臨床指針である。

(4)濃い自然着色がある慢性ウ蝕で、フクシン染色の範囲が自然着色と重って不明瞭な場合には、濃い自然色部を完全に削除すればよい。

(5)アマルガム充填下の金属イオンで黒染した象牙質は必ずしも除く必要がない。

熊本市学術委員会では先刻、アンケート調査の結果、補綴・保存に関する講演希望が圧倒的に多く、その線に沿って、この度の講演会は開催されました。(去る1月19日(土)、PM2:00)土曜日の午後にもかかわらず、100名を越す参加者で極めて盛会でした。

演題は、毎日の診療に於て最も頻度の高いウ蝕象牙質の除去に関するもので、その都度、適確な治療指針はないものかと諸先生方も悩んでおられたものと思います。



展望室



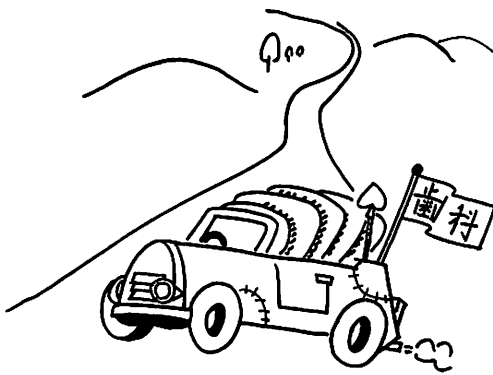
僻地巡回歯科診療

熊本県衛生部医務課

歯科医長 福田 正 純

県の巡回診療は昭和38～39年頃から初まったと思いますが、その頃は道が悪く、診療車（ジープ）に「スコップ」と「金てこ」をのせて、崖くずれを払いのけながら現場まで行っておりました。従って4～5時間位かかって到着という例はめずらしくなく、こちらがくたくたになって患者になってしまったことを思い出します。

先生方は毎日の診療に所内を走り回っておられると思いますが、ここに2～3の患者との対話をのべ、少しでもお慰めになるならば幸いですと思い筆をとりました。

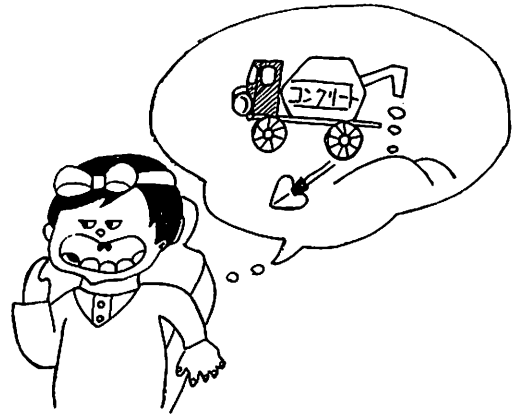


№1

K 「先生、あなんほげとるけん、コンクリートばつめちはいよ。」

D 「なんな、コンクリートばなあー。」

K 「山仕事の忙しかけん、さしよりコンクリートでよか。」



あまりおかしかったので

D 「コンクリートなら工事現場に行けばそん位ならやらすばいた。」

といってやったら

K 「先生、あんコンクリートじゃなかない。歯に白かつばつむどがいた、あったい。あーたはしっととかいた。」

ときたので

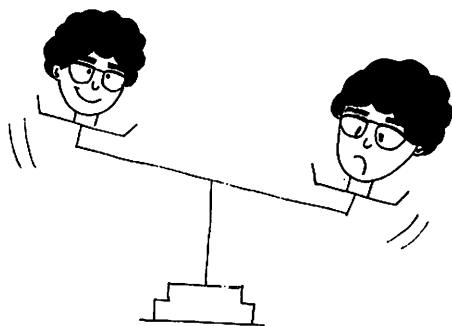
D 「わかった。わかった。どう見せてごらん。」

見ると充填どころではない。

そこで患者につめられない訳を説明するが、今のチャンスをのがしたら町の診

療所まで行かなければならんわけだから、ねばること、ねばること。そこで厳然？と

- D 「私は絶対つめない。」と宣言？した。
本人は穴をふさいでくれたら、いい訳だがこちらはその後を考えているからそうはいかない。
1日でお別れの患者であり責任がある。
ところが患者が頭にきたのか
- K 「〇町の歯医者さんはすぐつめちやらすばいた。あーたは“ヘタクソ”だろ。」ときた。
私たちのやりとりに周囲は大笑いである。
とうとうあきらめたのか、患者が椅子からおりた。それから数ヶ月たった第2回目の診療日ににやにやしている患者がいる。
あの時の患者である。
そこで先手をうって
- D 「あら、ヘタクソん歯医者に又治療にきたかいた。」
- K 「あんどきやすんまっせんでした。あれから数軒歯医者ばまわったばってん、だーもつめちゃやらっさんだった。あーたが言うたつゝ本当だった。あーたは上手なあー。」ときた。



第1回目は「ヘタクソ」。第2回目は「名医（迷）？」である。
やれやれ先生とは大変な仕事である。

第2

- K 「先生、かぶたん（残根）の残っとるけんにーじ（抜いで）はいよ。」
見ると小さい残根であとはきれい（1本もなし）ではあるが歯牙は摩耗してしまっているの
- D 「いれ歯（義歯）はいれとっとなあ。」
- K 「いいえ」
- D 「あーたはどこでかみよんな。」
- K 「はい“どて”で食いよります。」
- D 「そうだろ、歯ぐきのうなっしょうとるもんなあ。1日も早う義歯を入れて長生きしなけれゃいかなあ。」
- K 「先生、ひやかしなすな。私がまちいっど若かなら考えもしゅうばってん、こがん年になってかどぎゃんするかいだ。」



考え方がまる反対である。義歯をアクセサリーと考えている人が、ここにまだ1人残っていた。

K 「先生抜いではいよ。」

D 「どれどれ、見せてごらん。」

K 「……………」

？ 抜歯する歯は見当たらない。

見事な健全歯である。満点の口中である。

そこで名医？も仕方なしに

D 「どん歯なあ。」

K 「どっでんよか。」ときた。

D 「抜く歯は一本もなか。立派な歯ばかり
たい。」

K 「先生のはるばる熊本かるきなはったけ
ん記念に1本抜いでもらおうと思ったつ
ですたい。」

D 「なんてなあ。」

熊本市で行われた 64年前の歯科衛生展のお話

熊本県歯科医師連盟長 大 関 英 明



昭和3年(1928)

6月4日第1回全国ムシ歯予防デーが日本連合歯科医会主唱で行われてから、戦中戦後しばらくの中断はありましたが、歯科医師会の公衆衛生活動の主要事業として続けられています。

ですが、それよりも更に古く大正5年(1916)に熊本市において、歯科衛生の展覧会が催された記事が「歯科学報」21巻、1号、のP73～75に掲載されていますのでご紹介してみたいと思います。

その頃は御大典奉祝行事で町中賑っていた時代で、口腔衛生活動として日本連合歯科医会は講師向井喜男を派遣し、各地の学校を主として講演や幻灯を応用して学校歯科衛生の普及に力を尽し、またライオン歯磨会社では講演班を組織し、緑川宗作を講師として全国の巡廻講演を行い大きな効果をあげていたし、我国初めての「口腔衛生学」が発刊されたのが大正8年でした。

以下、なるべく原文のニュアンスを壊さない

ように、前記歯科衛生展覧会の記事を転載いたします。多少現代文に直したり、300字程省略したりいたしましたので悪しからずご了承下さい。

○ 熊本市主催衛生展覧会

(歯科学報 大正5年1月号より転載)

くろこ 曠古の大典を記念せんがため、熊本県は逸早く昨年来、大典記念国産共進会開催の議を決したり。素より県の事業なるも市の名義にて著々準備整頓し、10月10日を以て開会式を挙行せり。

教育展覧会は右国産共進会開期中最も殷賑なる時期を利用し、11月1日より20日まで右会場内に開催することに決し、学校教育部、社会教育部及び教育部の三大部門に分ち、社会教育部の一部に衛生部を置く可き最初の計画なりしに、中途にして衛生部は独立して衛生展覧会を開催し、教育展覧会と対峙せしむることとなせり。

かくのごとくにわかぬ催しなるも時宜に適せる施設なりしと、委員諸氏の尽力、篤志家の同情により趣味と実益を併有せる陳列品2千8百有余点の多数を蒐集出陳することを得たり。

会場 熊本市手取本町高等商学校内

陳列場 4 間に 5 間即ち 20 坪 室 8 ケ所
計 160 坪並びに 1 間に 20 間の廊下とを以て
これに宛つ。

衛生展覧会独立開催と決定するや、市長より
歯科医師会に対し、歯科衛生部擔任を囑託せら
れしを以て、幹部においては歯科衛生思想近來
頻に進歩しつつある折柄好機逸す可からず、直
に各方面に檄を飛ばし、賛同と援助を求め、日本
歯科聯合医師会に対し所蔵標本及模型の出陳を
懇請したるに、時あたかも各地方とも各種の催
あり、遺憾ながら謝絶の返信に接し会員一同策
の施す可き所を知らず、その成立を氣遣ひしも、
幸にも東京歯科医学専門學校幹部諸氏の多大なる
同情と援助により所蔵の標本模型出陳を許諾
せられ、又榎本氏は矯正模型出品の快諾を与え
られ且つ聯合歯科医会所有の掛図及説明図を加
え茲に歯科衛生部の成立を見ることを得、本会
の面目を保つを得しは偏に諸氏の賜なり。

衛生展覧会は当市に於ては最初の催にて、前
述の如く突差の内に成立し且つ共進会場内には
適當の場所なく、止を得ず遠隔の不便なる場所
にて開催せるを以て共進会入場者全部を収容す
ること能はず且つ市中は各種の催にて混雜熱狂
せる場合其効果の如何亦他部と歯科衛生部と出
品陳列の權衡如何は会員一同深く顧慮せし所な
りき。

11 月 1 日いよいよ開會、委員諸氏交互熱心
説明に當れり、一見すれば容易に了解さるる事
物も之を記述せば其實物について説明を聞くが

如く默然として之を悟らしむること能はず。然
るに這般衛生展覧会出品を目撃して其衛生思想
を涵養し斯道の發展に貢獻すること渺ならず、
是等の参考に供す可きものは何物と指定するこ
と能はざるも齒刷牙使用説明、頬癭、齒牙交換、
齒牙血管神經等標本模型は甚大の注意を喚起せ
しが如し、兎に角豫想外の成功にてたしかに社
会に向て歯科衛生思想を充分に啓発せしめたり。

出品品目は歯科医学中主として解剖生理病理
等を陳し、加ふるに技工標本の主要なるもの数
点及歯科材料品を列したり。之れ他部の出陳品
は大体において學術本位に組織せられし關係上
獨り歯科部のみ技工品を多数陳列するは觀者を
して歯科は技工本位にして學術的方面の貧弱な
りとの思想を惹起せしむるの恐あるを以てなり。

出品数は東京歯科医專及榎本氏の 42 点、在
県会員 53 点及各種統計表 15 枚合計 110 点
とす。

入場者は連日の降雨と位置偏在せるに係らず
10 日間入場者 2 万 6 千 5 百 40 人なりし。

斯の如き狀況にして当事者の熱意と各方面の
同情深厚なるとに因り歯科衛生思想の向上發展
に多大の効果を印したるは争ふべからざる事實
にして吾人の主力を傾注したる価値徒勞に非ざ
るを認む。

以 上





ふるさとの緑

あれこれ

自然と文化を愛する会々員 村山 豪

「森の都」とよばれる熊本市は人口52万人の巨大な都市になりましたが、市中には熊本城、立田山、花岡山、水前寺、健軍などの樹叢がよく残され、市民や県外観光客に親しまれております。中でも熊本城の緑はクスノキ、エノキ、ムクノキ、ヤブツバキ、イチョウ等の巨木群が四季おりおりの景観を構成し、長い間森の都を代表してまいりました。

10年程前のこと、NHKの佐藤アナウンサーが着任早々「熊本の緑はどっしりした歴史の深さを感じさせます。関西の何処の街にも見られない風景です。それにもう一つ感心したことはタクシーの運転手さんがとても親切なことです」と話して呉れました。昭和41年に県の木に指定されましたクスノキには、実に1,000年の樹格も数多いのですから佐藤さんの第一印象も無理からぬことと思われまふ。

昨年5月、熊本の写真の草分けとして有名な富重利平の「明治の熊本、あのときこのとき写真展」が交通センターで開かれ、明治初年からの熊本城、街、建物、人物、風俗等沢山の写真が並べられました。勿論白黒写真ですが、植物に興味をもつ私は2回にわたり、拡大鏡で丹念に拝見しました。「熊本城天守閣前の大イチョウ」この樹は西南の役で焼失したのですが、その根元から新芽が伸びて今では三代目に当る木が大空高く繁っているのです。この写真展で

このイチョウの100年の歩みを知ることができました。

熊本城内に数多く残されているイチョウはその昔、築城に当って落雷除けの避雷針として植えられたものであろうと私はかねてから考えていましたが、この写真展によって益々自信を深めることができました。

いま一つ、宇土櫓の西側に並ぶエノキとムクノキの並木は相当の老木で、この木蔭に勢揃いした甲冑姿の軍馬を何時も夢の様に描いていた私でしたが、実はこの並木はもっともっと後年に植えられたもので、明治10年当時、樹令20年程の若木であったことが富重写真展で確認され、私の夢も正されて城内の老木の樹令を推定するのに大変参考になりました。最近、私達はカラー写真だけに傾倒していますが、長年月保存に耐えた白黒の記録写真の真価をつくづくと感じさせられた展覧会でした。

さて、城内の珍しい木としては、テニスコートの一角に残るトチノキ（栃、七葉樹、フランスでマロニエ）この木も大変な老木で毎年5月の雨に純白の花房を見せています。細川家第八代藩主細川重賢公が「生物生うつし」10巻に収められたトチノキの写生もこの木をモデルにされたものではないかとも思われる老木です。次に、二の丸公園の空濠の土手に熊本では珍しいカツラの老木が一本あります。カツラは北国

の木なのですが何うしてこんな処に生長しているのか不思議なものです。

また、城内のところどころ、数本のホルトノキという暖地海岸に多い樹種も見られますが、藩政時代ホルトノキの実から採取した油は医薬に用いられたとも聞いております。

ともあれ、熊本城の森はふるさとの緑の代表的存在です。吉川英治「古城夢ふかく」の言葉のように城跡の深い木立は、その地の歴史と文化をしのぶ何よりのよすがと思うのです。人吉城天主跡の杉林では相良700年の歴史をおもひ、日向飫肥城では日薩の攻防の歴史を城跡の飫肥杉の木立の中で夢見るのです。私は旅行の際、一冊の分県地図を求めて車中その地方の歴史を調べて参りますが、最近では四国の松山城、国取物語りの岐阜城に上り、深い森木立の中に一時を過しました。ふるさとの城、お城と森、これからも各地の城を訪ねて私の分県地図は何冊にもなることでしょう。

終戦まえ、満州にいた私は、東辺道白頭山系の大森林を歩いたことがあります。今日、シベリヤ、カナダ、アラスカ、ボルネオ、ブラジル等の世界屈指の大森林も、近代の人類の増加に伴って年々開発が進みその資源の有限さが論じられてきています。

近年、中国との文化交流が進み、シルクロードを始め西域各地の情報に恵まれています。在満当時に経験した蒙古の砂漠を想い起しながら、緑の少ない西域遺跡への夢をつのらせています。さきごろ、前会長の緒方先生がエジプトからケニヤ方面に旅行されましたが、当時の先生のスケッチ「サバンナの木」一枚が私の手元にあり、アフリカ大陸の自然社会をしのぶ貴重な記念となっております。

今年の3月、京都で国際ツバキ会議が開かれ、閉会後八ヶ国130名の外国の方々が熊本の肥

後ツバキを見に来られ、受入側の私共も約二ヶ月に亘り接待や案内に追われましたが、晩春のウメ、ツバキ、サクラの時期とあって一行は大満悦、熊本城や立田山の緑を激賞して帰国の途につかれました。

ふるさとの緑は、貴重な遺産であります。熊本県は国内でも指折りの森林県で、幸いにして木材や水資源に事欠くこともなく、まだまだ自然に恵まれているといえましょう。

しかしながら、戦後35年の間には森都の緑にもシイノキ、モミ、スギ、ヒノキ、サクラ、タブノキ、カキ等の姿が段々減っております。熊本市の発展は市東部に驚くほどの速さで伸展し、健軍、託麻台地のかつての樹叢や竹林は、今日見る程の影もなく宅地化されつつあります。為にさしもの名園水前寺公園も、昭和53年以来毎年地下湧水の枯渇現象に苦慮しております。都市の発展は喜ばしいことではありますが、市民の願いである「江津湖の再生」の前面にも市街地の過度な舗装化、全家庭における化学洗剤の濫用、産業汚水等の対策が大きな問題となります。一方、今だに続いている源流地帯における森林過伐は直接水資源の枯渇を招来することも忘れてはなりません。

今や、自然社会、特に緑の環境をより安全に保続させる英知を考える大切な時と思われます。私共はふるさとの緑を享受すると同時に、更に一本でも多くの木を植え、この尊い緑を何時までも守り継ごうではありませんか。

（自然と文化を愛する会々員）

著者は、肥後ツバキ、肥後朝顔等では、特に造詣が深く「肥後六花選」等の著者でもあり、故緒方先生とはセルバン会等で以前より親しくして居られ、現在は、熊本県立農業大学校附属農高等研修所で講師をして居られます。

第12回かめる会展を見て思うこと

画廊喫茶 セルバン 正 木 忠 男

かめる会 この会の名前もだいぶ市民の間に親しまれてきたような気がする。それは今年が12回目というキャリアの重さだけではなく、出品者各位の創造への情熱と、その姿勢が観る人に気持ち良い印象を与えているのではなかろうか。

考えてみると、会が出発してから既に12年の歳月が流れていることになる。

昔から芸道を究める人にとっては、10年ひとふしという言葉がよく使われている。どの道を歩むにせよ、10年が一段階ということだろうか。この意味からすると、かめる会も先づ最初の一段階を無事通過し、愈々第二の段階に踏み込んだことになる。

なるほど、今度出品された作品の全体を一瞥して先づ感ずることは、これは単なる写生的描写というだけではなく、何故に描くか、如何に描くか、という問題意識がその底辺にあって、その上に立って自分の中の美意識が気持ちよく表現されてきていることに気付くのである。この12年間の大きな収獲は、やはり一步一步自己の中の創造力がひろがってきた、ということだろうか。

よく聞く言葉であるが、上手な作品と、よい作品とは、その意味は違うということである。作者の人間性と感性的表現が観る人に強く伝わってくる作品——こんな作品はとにかくよい作品に違いないのである。それに反してその構成や形式など見事に出来上っていても、訴えてくるものがなければやはりロボットと同じことになるのである。

こんなことを考えながらかめる会の作品を眺めていたら、「これは少くともよい方向に進ん

でいるな」、という気持が段々強くなってきたのである。愈々これからが楽しみである。

さて、観た者の義務として、出品された作品について、私なりの所感を述べてみると——

先づ壁面の順序に従って、岩村泰行氏の「緒方先生」と題する作品は、人物作品に最も大切な要素であるその人の性格や特性がよく生かされている。特にちょっとした表情の中に感じられる人物の習性が鋭くとらえられている点など強く印象に残っている。技の錬磨次第ではこれからが大変面白くなってゆくのでは。——次の作品、木村義浩氏の「ひまわり」は、ひたむきな情熱を先づ讀みたい。一本のひまわりに神経を集中した大胆な構成ながら、平易に流れず、作者の気持がよくにじみ出ている。どうかすると失敗の多い構成であるが、この作品が生きているのは、その内容性によるものだろう。——さて、次の奥田実氏の「カナダ風景」と「竹の子」は、大きなロマンを求めてゆく作者のボージーが静かに流れている。この詩精神に支えられた作者の心情をこれからも大切にしたい。造形に厳しい画家のなかには、よく詩情を否定する者もいるが、私はむしろ作者の体質に潜む詩情が自然な形でにじみ出てくることは美の重要な要素として讃歌したい。——次の宇治寿康氏の「花」。この作者の花は久し振りに見た。これまでの作品と少しマチエルが変ってきたようだが、とにかく無理のない新鮮な作品である。やはり虚心な気持でモチーフに向ったことが成功につながったと云えるだろうか。質感もよく出ているが、とにかく花の心が美しく伝わってくる。この作者の場合、これまでのひたむきな技の修練がこのような純度の高い作品を生んだと

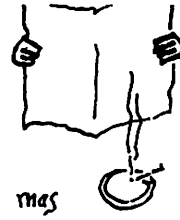
云っても云い過ぎではなさそうだ。これを原点としてこれから大きく開かれてゆくことを期待したい。—— 次の渡辺安人氏の「風景」は、とにかく鋭く深く然も仔細に対象に切り込んでいたことが成功につながっているようだ。技の至らざる点をも超越して作品にリアリティを感じるよい作品である。これからもこの気持を尊重してゆかれるよう切望する。—— さて次の作品、緒方進氏の「にんにく」。先づ構成の良さを特筆したい。淡淡とした表現ながら、程よい色彩が醸成されて気持よいリズムが流れている。素直な心で対象と対話したことが、無理のない画面を作り上げたのではなかろうか。おそらく作者のこれまでの作品の中でも出色の一点と云っていいだろう。—— 次は伊藤俊一氏の「翁面」である。仲々ユニークなモチーフである。とにかく普通の人物作品以上にその裏部に潜む翁面の心情への執念なしには、とても表現し難い大変厳しい対象であるが、作者の邪心のない語りかけが無理のない翁面を築き上げたと言えようか。佳作である。—— 次は故、緒方益夫氏の「風景」。この作品を見ながら往年の作者のロマンとその多彩な生活を偲び、作品の良さを改めて感じる事が出来た。そして思うことは、作品は永遠に生きてゆく、と云うことである。合掌。—— さて次なる作品は田島宗穂氏の「献花」である。氏はとにかく感覚性豊かな資質に恵まれた人である。この恵まれた資質が色彩にもマチエルにもよい影響を与えている。と云っていいだろう。この直感的な作品の美しさをより高くするためには、それを支える技の修練が必要になってくるだろう。—— 次は沢田宣彦氏の「あじさい」。対象をじっくりと自己の眼と心でみつめながら、その外形を写すことにこだわらず、その実相を表現したいと願いながら制作されただろうと感じさせる点を評価したい。色彩にも自分の心が動いていて面白い。仕

上げにもう一工夫あれば、もっと強い説得力をもってくるのでは。—— 次は鈴木勝志氏の「金峰山」。恐らく相当永く描いてこられたのでは、作品を見ながらすぐそう思った。とにかく絵具がよく馴れていて、よくついている。構成にも難がなく色彩感覚も優れ、画面の調和がとれている。欲を云えばちょっとまとまり過ぎているかな。—— さて次は上三垣晋甫氏の「花B」。先づ自分の意志を率直に表現してあることに好感が持てる。いろんな小細工を弄することなく、自然が与える天然の美を素直に受けとめながら語りかけるような気持で描いてゆく作者の心情は貴重なものである。これから一步一步技が磨かれてゆけば序々に引締ってくることだろう。—— 次の杉野陽二郎氏「風景」。無理のない悠々とした作品である。わざと見せ場を作ろう、と云った邪心がなく虚心に心の窓をひらいてモチーフに語りかけている情景が実に気持ちい。美の大切な要素を秘めている作品であるが、これをもっと生かすためには今一つ技の工夫が求められる。—— さて最後の作品は大関英明氏の「作品A」である。さすが永い画歴を持つ人らしく洗練された技術は確かなものである。およそ具体的なものを一応捨象し形象化するには造形の確かさとマチエルの修得が重要な要素になってくるが、作者の経験の豊かさがよくこの問題を需理し、見る人に面白さを与えてくれる。そして背景に在る作者の心象風景も、のぞくことが出来るのである。

以上、紙面の許す限り私の拙い所感を率直に並べてみましたが、まだまだ充分云い尽せないことや、言葉運びのまづさなど多く、全く汗顔の至りです。至らぬ点は何とぞ御寛容の程を。——

(完)

本日休診



ソ連邦抑留記

(4)

元海軍歯科医大尉 坂口孝至

第5部 帰国・復員

10月5日、ビヤジル作業隊よりマルジャンスク収容所に引揚げたところ、ダモイ、ダモイと年がら年中ダモイの噂が出なかったことのない、そのうれしいダモイは矢張り本当のようで、収容所内は何かざわめいていた。帰国該当者の尉官は既にその準備を始めているところだった。それまでソ連側よりヤボンスキー・スコーラ・ダモイ（日本人は間もなく帰国する）と何度となく騙されたので、誰しもが半信半疑の受取り方をするのが常であったが、今度こそは本物だと皆が喜んでいて。

ソ連側より帰国に際しての所持品に関する通達があった。防寒帽、外套、軍服、靴等各一つ、シャツ何枚、靴下何足と限定され、軍服を着た写真、書籍、印刷物、筆記した紙類等一切持ち帰りを禁止するとのことだった。

昭和22年10月14日、尉官を主力に、文官、軍属、警察官などを一部含めた約1,200名が、マルジャンスクよりの帰国第2梯団としてアンチ・ファシスト本部（1中尉）の統率で、マルジャンスク収容所を出発することになった。収容所正門内に集合して、ソ連側がロシア語のアルファベット順に作った名簿に依り、一名づつ名前を呼んで整列をさせ、所持品検査等を行

った。準備完了と同時に、収容所の正門を出発してマルジャンスク駅へ向って足取りも軽く帰国の隊列が続いた。

マルジャンスク駅にて輸送列車に乗車。矢張り貨物列車の二段装置である。二年前マルジャンスクへ連行された時の二段装置の貨車を思い出すのだが、今度はダモイという気持ちの明るさがある。又、二年前は未知の国で而も言葉が全然通じなかったのに比べ、今度はソ連という国もその国民性も一応は解っているし、言葉も誰しもが片言位は、何とかなるといふ気持ちのゆとりもあったと思う。

マルジャンスク駅を発車。二年前連行された時と同じ鉄路を逆に東進し始める。今度は気候も丁度良い季節、それにソ連兵のダワイ、ダワイのうるさい聲も殆んど聞かない。列車が駅に停車したとき、貨車の外に出て軽い体操も出来た。

帰国梯団を統率するアンチ・ファシスト本部は、各貨車ごとに彼等の文化サークル責任者をあらかじめ配置して、全員に赤旗の歌など労働歌を合唱させた。この合唱を貨車毎に行わせて、熱意の少ない車軸を指摘し、その士気を上げさせるようなこともしたが、帰国するためにはと、全員が一応唱っていた。亦、我々の輸送列車のことを偉大な民主革命への決意と抱負と闘魂と

をのせた民主帰還列車だといって、民主革命への情熱を盛り上げるようなパンフレットの発行をしていた。その中に、沿線に働く強く逞しいソ連国民を称えるといったことなども書いていた。

列車はクイビシエフ、ウーフアを通過しウラルを登り始める。可成りの勾配を登っていることがはっきりとわかる。貨車の小さな窓から外を眺めると、小春日和の秋景色、往路の酷寒の時期と違い、窓から秋風が入って爽やかであった。ウラルを越えて下り終ると、チェリヤビンスクに着く。ここでは停車時間も長かったので、私は駅前を一寸覗いてみたが、一帯は人の雑踏であった。列車は愈々ヨーロッパを離れ、アジア（シベリヤ）に入る。帰国の東進列車は気持ちも軽い。ノボシビルスクの重工業地帯の空は煤煙で覆われていた。クラスノヤルスクでは往路の時と同様に大休止をして入浴があった。

クラスノヤルスクを過ぎ、タイシエットに着く前ではなかったかと思うが、列車の窓から俘虜収容所が見えた。そして附近に日本人の姿を見た。ここにも日本人が収容されている。まだ帰国していないのだ。この辺りでは既に帰国の途に就き、残ってはいないだろうと思っていたが、まだ残っている。すると我々の方が早いのか、彼等の身の上にさわりなきを祈りつつ、すまないがお先にと告げたい気持ちで通過した。

イルクーツクを過ぎるとバイカル湖、その広大さと水の綺麗さを眺める。秋のバイカルは冬とは違った感じがする。シベリヤも往路の雪景色とは、また違ったものを見ることが出来た。又我々も往路の絶望感に満ちた沈痛な想いと違い、帰路は、帰国という希望が疲れを軽くする。チタを過ぎて、我々が嘗て満洲より初めてソ連に入ったカリムスカヤを経て、今度はシベリヤ本線を直進する。これからは初めて通る土地である。ハバロフスクを通る時は夜であったが、

小高い丘の上にも電灯の明かりが見えていた。

列車は愈々ウラジオストックに近づくが、沿線に日本人部隊が作業をやっている。まだここにも残っているのかと思う。彼等の話によれば、集結地の収容能力が貧弱なために、鉄道沿線、ことにウォロシロフ附近で船待ちをしている部隊が非常に多いという。中には一旦集結地ナホトカに到着しても、収容所が一杯で入れず、輸送列車はそのまま引き返してウォロシロフ附近で下車、待機しながら作業をやっている部隊もあると聞かされて一喜一憂したが、列車はやがてウォロシロフを無事通過して一路南下して行く。更に南下を続けていると、海が見え、皆窓から首を出してのぞいた。何年振りかに見る海、青色がなんともいえずなつかしかった。海岸に収容所らしい天幕が沢山張ってあるのが見える。列車は海岸近くを走っている。彼方には突出した岬が見える。波頭が太陽に照らされて美しい。やがて輸送列車は最終集結地ナホトカに到着した。このまま待機のために引き返すことにならないかと一抹の不安もあったが、下車命令が下り、一同ほっとした。マルジャンスクを出発して25日目の11月7日であった。

我々はシベリヤ鉄道一万軒の旅をやっと終った。下車して海岸に集合した我々は、感慨深く海の彼方を眺めた。ようやく我々の夢は実現しかけている。長い貨車輸送の旅に疲れた顔にも、思いなしに明るいものがある。貨車の整理や人員検査など手続きが終って収容所に入った。

収容所は浜辺にあって、第一、第二、第三分所からなっている。どの分所にも木造の建物は少なく、天幕が沢山張ってある。ナホトカで一緒になった人達に、マガダンに抑留されていたというのがいた。マガダンと云えばオホーツク海の北の端で、シベリヤとカムチャッカ半島の間にある所だ。あんな処にも日本人が行っていたのかと驚いた。マガダンは最低気温、零下70

度までさがることがあり、顔が真白になることがあったと云っていた。

又、外モンゴールのウランバートルで起きた「暁に祈る」という事件の話を聞いた。これは日本人が日本人を刑に処するという驚くべき事件である。この刑罰とは、夜日本人が日本人を素裸にして木にくくりつけるのだそうで、零下何十度の極寒だからたまらない。翌朝東の空が白む頃には当然冷くなっている。そして頭を垂れているので「暁に祈る」と呼ばれたそうである。

私達は第一分所に数日間居た後、第二分所へ移った。集結地といふながら、ここでも労働は激しかった。我々は一日に何度も使役にも使われた。ソ連に居る限りは、最後の瞬間まで労働に従事せねばならないことは、何処でも変りはないらしかった。

こゝの収容所施設の一切の仕事を切り盛りしているのは、日本新聞が獲得した、

所謂民主グループの同志達である。20代の若い人達が多く、皆顔色もよく肥って元気そうである。唯物論なり、共産主義なり、新聞の論調と少しも変らないことをいうが、非常な熱意をもっている。彼等から、この収容所は4月頃最初に来た民主グループの人達によって、苦勞してつくられたものだということを聞かされた。

民主グループは我々の啓蒙運動を意図して居り、戦争による都市の荒廃、農民の奴隷状態等を説いて、それ等の状態はすべてを天皇制の悪い所だとし、その打倒を叫ぶのが常だった。い

づれにしてもナホトカの空気は極端に偏したものであった。そして、それが遑二無二、同胞の手によって強制された。日常生活の端々に至るまで、総てがその線に沿って行われていた。我々は、自由な天地に帰るまでのしばらくの間を、極めて不自由な所で窒息しそうになりながら、帰国を頼りとして堪えていた。一寸でも民主グループの誤解を抱くような言動は一切しないように自重することだった。

第二分所で数日を過した後、所持品検査等が

あって、これが済むと第三分所に入った。もう船に乗るばかりである。第三分所では木造の家屋に収容されたが、中の方は二段装置になっている。ぎっしり詰め込まれて座ったまま身動き出来ない状態であった。私は床下に這って入った。建物の中は人の塊りで、温度はどんどん上昇する。上段にいる者などシャツ一枚にな



ナホトカ収容所の全景

第一、第二、第三分所に分かれている

っている。用便に出るのも人の間を押し分けて行かねばならない。建物の外に出れば気温はぐっと低く、防寒外套を必要とする。用便に行く事も難事であった。こんな状態で毎晩を過ごさねばならなかった。

第三分所に入った数日後の11月16日、民主グループに依る復員式が行われた。民主グループの開会の辞で式が始まり、ソ連側の送辞。アンチ・ファシストが帰国者を代表して感謝文を朗読。日本新聞のメッセージが送られ、全員インターナショナルの歌などを合唱させられて

式が終る。このあと、出発が命ぜられ、人員検査があって第三分所を出た。港までは約三軒。地獄のような生活の中から、よくぞここまで生き抜いたと誰の顔も憂鬱から解放されて明るい。

峠を越えると港が見えた。ナホトカの港は、港としての設備は殆んど整っていない。ここがソ連抑留者の輸送を行っている唯一の港とは思えないくらいで、精々漁港位の所であろう。岸壁には既に船が着いている。近づけば日本の貨物船永徳丸で、日の丸の旗が翻っている。久し振りの日の丸に一同感無量、今まで騙され続けて来て、最後まで気を許さなかった一同もようやく安心した。

日本人の船員が甲板を走り回っているのが見える。何とも云えぬ懐しさを感じる。やがて乗船。夕食から船の食事が支給される。少量ではあったが何年振りかの米の飯、さぞかし胃腸がびっくりしているだろうと思われる。船がナホトカを出港して日本海に出ると、ソ連とも完全におさらば、本当に解放されたといった気持ちで一杯であった。11月16日午後のことである。

ナホトカを出港したその晩、或る出来事が起った。マルジャンスク収容所のアンチ・ファシスト本部のリーダーをしていたI中尉を呼び出そうと、何処からともなく、誰からともなく「Iは何処にいるか、I出て来い」との聲が出はじめた。この声が殆んど全員の聲となって拡がり、I中尉は船倉の中央に引っ張り出されて座らされる。そして「お前は今まで日本人を食いものに出来た。俺達日本人を何とと思って来たのか、ソ連の手先になって日本人を酷使して来たではないか、俺達の上に特権のあぐらをかいてふてぶてしく振る舞って来たソ連のイヌだ。日本人じゃない、ソ連のスパイだ、国賊だ、そんな奴は日本海へ放り込め、放り込め」と一同から攻撃されて吊し上げられる一幕が突如として

起った。今までの鬱憤が一度に爆発したのだった。

永徳丸は戦時標準型として作られた貨物船で、船足の遅い船であった。煙草やちり紙も配給になった。薄い綺麗なちり紙を手にとって見ていると、何かこういう紙を昔使っていたこともあったのだなあ、というような錯覚に襲われるのだった。11月19日、夕方近く、舞鶴の島影が見え出した。これが幾度も夢に見た内地の山河だと思えると、感慨が沸き起る。又一方では、果して本当に内地の島影だろうかとの疑いが無意識に走るのか、或は内地が戦後どうなっているのだろうかといった不安からであろうか、島影を見ても素直な感激を押える気持ちも出て来る。嘗て外地から内地に帰る時、内地の島影が見えると感激そのものだったのに比べ、何か複雑さを感じたことだった。もしかしたら浮慮ぼけたのだろうか。

船は19日夜、舞鶴に入港。其の夜はそのまま投錨して、翌20日舞鶴に上陸、帰国の第一歩を踏みしめたのだった。早速、検疫、入浴等があった。満洲で入浴して以来、二年余振りに浴槽に浸って、長い間のソ連の汚れと捕虜の垢をすっかり洗い流し、清める思いで、入浴らしき入浴をすることが出来た。そして、さっぱりした心地で帰国第一夜を迎えた。翌11月21日、復員の事務処理を終った。私達はソ連よりの帰還者、第19万何千番目ということだった。

其の後、GHQの調査や帰郷準備が行われて、11月24日舞鶴駅発、復員列車にて帰郷の途に就く。11月25日、私は熊本に帰り着いた。

故国の山河は何ら変ることはなかったが、唯、日本人が変っていることに驚きを感じた。戦争が終ったことを喜ぶのは誰しも当然であるが、戦争に負けたことまでも喜んでいる姿には意外さを感じざるを得なかった。戦災にあった都市にはブラックが建ち並び、戦後復興のスタート

は既にきられていた。戦後の再出発に立ち遅れたことを痛感し、決意を新たにした次第であった。

私達より一足早く帰国したマルシャンスク第一梯団で、旅順海軍の水兵だった米加田幸雄君が熊本（山鹿市）に帰っていた。彼はマルシャンスク収容所に残る熊本県人百数十名の住所と氏名を全部頭の中に記憶して、ナホトカで乗船、直ちに引揚船の船員より紙と鉛筆を貰い、忘れぬうちに紙に書いて持って帰り、地元紙の熊本日日新聞社を訪れ、これを提示してマルシャンスク残留熊本県人全員の生存確認の報道をしていた。筆記したメモ類一切の持ち帰りを禁止したソ連だったので、彼は熊本県人全員の名簿を頭の中に入れて帰るといふ離れ業を成し遂げていた。

米加田君は水兵だったが事務能力に優れていたもので、旅順では旅特根司令部の主計科事務室に勤務していた。彼の献身的な努力とその功績を称えと共に、海軍の誇りとしてここに報告して置きたい。

その後、熊本県に於いては熊本マルシャンスク会が結成され、昭和39年第一回総会が開かれた。熊本県には、最後の関東軍総司令官・山田乙三大将の高級副官をされていた泉可畏翁陸軍大佐（マルシャンスクでは第三次ビンスク作業隊長をされた）がおられて、終戦当時、満洲で或はソ連抑留中に殉難された犠牲者の御霊を慰めねばと、熊本マルシャンスク会が母体となり、ソ連帰還者全体に呼び掛けて、昭和45年、満ソ殉難者慰霊顕彰会が全国に先がけて結成された。

調査の結果、終戦直前ソ連参戦の混乱状態のため、約一ヶ月足らずにして、戦歿、殉難した者の推定三十万、熊本県関係のみにて一万を越

えている。日露戦争の戦歿者の十倍を超ゆる数字は如何に悲惨なものであったかを物語っている。

かつては日本の最強、世界にも誇った関東軍はその兵力を兩方に裂き、日ソ不可侵條約を唯一の頼みとせるにも拘らず、戦車を先頭に国境を越えて怒濤の如くに押し寄せるソ連軍に対し、火炮はおろか小銃すらなく、竹槍に等しい装備をもって、立ち向わねばならなかった戦歿将兵の無念如何ばかりかと祭するに余りあり、又王道楽土を夢に見て漸く定着せる開拓団を始め、一般邦人殊にうら若き青少年義勇隊や老若婦女子の非命を思うと悲痛の極みである。

酷寒のシベリヤに於ける厳しい重労働とそれに伴わぬ給養による栄養失調、寒さと飢に堪え切れずして遂に帰国の日を待たず怨を呑んで異境の土となった抑留者の犠牲に対しては、思うたびに慄然たるものがある。

遺骨収集の道は、未だに堅く閉ざされて何時実現するやも期し難く、或は永久に遺骨の故国に帰る日はなきやも知れない。

といった趣意のもとに、慰霊事業を行うことになり、軍人・軍属だけでなく、一般居留民、開拓団、青少年義勇隊等総ての日本人を対象とすることになった。又、熊本県で結成された開拓団の中に、当時婦女子を含めて全員が自決をするという悲惨な事態も起きている。

満ソ関係生存者は勿論、一般県民有志の方々にも協賛と援助をお願いして募金を行い、昭和45年8月9日（ソ連開戦日）満ソ殉難者大慰霊祭が執り行われた。続いて昭和46年3月、満ソ殉難者慰霊碑が建立され、除幕式が行われた。それ以来毎年、ソ連が満洲に侵入開戦した8月9日と3月の年二回、慰霊祭が行われている。

（完）

在ソ連日本人捕虜の実態

新年早々の4日開かれた対日特別理事会で再び抑留邦人に関する件が取上げられるヤソ連代表は昨年末理事会に示したと同じように再び総退場を行い、米國政府の通告に関しソ連の態度がその後なんら変つていないことを示したが、対日理事会では「日本捕虜は完全に武装を解除したのち速かに故郷に帰らせ平和的な生産生活につかせる」というボツダム宣言の参照を要請して内外の注目をひいた。敗戦5年酷暑のシベリヤで邦人捕虜が

①いかにソ連の建設に資したか②いかにして戦犯(容疑)と摘せられたか③いかにして思想教育を受けたか④なお残留者はどうしているか⑤シベリヤの死亡者数はどうか⑥引揚げは今後どうなるかなどにつき昨年春以来舞鶴に上陸した邦人引揚げ者の語つたところをここに総合して在ソ日本人捕虜の実体を徹底引揚げ促進の一資料たらしめたい

全シベリヤの炭鉞開発

焚火凍る 酷寒下の苦役

①いかにソ連の建設に資したか

ソ連邦人捕虜を多量に抑留するは二、三週五年計の大きな労働力として邦人捕虜の抑留を重視している。邦人捕虜は戦時中にソ連の東部地方に抑留された邦人捕虜は約三、四千人に達した。このうち約二千人はシベリヤの東部地方に抑留された。このうち約二千人はシベリヤの東部地方に抑留された。

イス壊しても戦犯

単なる過失も調べずに処断

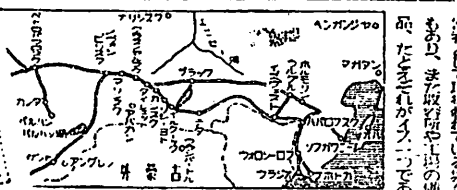
②戦犯摘発の実態

ソ連邦人捕虜は約三、四千人に達した。このうち約二千人はシベリヤの東部地方に抑留された。このうち約二千人はシベリヤの東部地方に抑留された。

性格的な欠陥者

給與へ敏感、感激的自己陶醉

こんな人が赤化された



に処断されている

殺人、強姦、略奪、放火、暴行、非道に及ぶがこれらは捕虜に課せられていない。捕虜は労働力として抑留され、その労働力によってソ連の建設に資する。捕虜は労働力として抑留され、その労働力によってソ連の建設に資する。

委員会活動

第29回「母と子のよい歯のコンクール」

熊本市選出

口腔衛生委員会では例年通り「母と子のよい歯のコンクール」熊本市選出を5月24日（土曜）市立熊本保健所で行った。

市立各保健所で行う3才児検診時に第一次審査を行い、今回は17組が最終審査を受けた。

歯牙う蝕の有無、治療の有無、咬合状態、歯列、口腔清掃状態を主に審査するのであるが、中には泣き出す子供もあり、最終審査に残った母子は「さすが」と思わせる者が多く、委員各氏悪戦する場面もあった。

我々委員は除々にではあるが、口腔衛生に対する感心が一般大衆に浸透して来ているという事を痛感している次第である。

審査結果

優秀組2組、南高江町 須恵れい子（30）

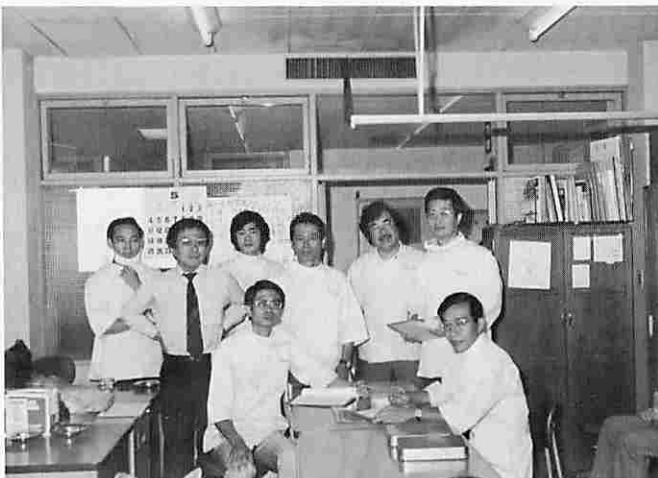
くらら（3）

東町 白本美保子（26）

美 香（3）

口腔衛生委員長 関 剛 一





補助者研修会記

本年度の熊本市歯科医師会学術委員会による補助者研修会は、7月6日、13日の両日、約90名の参加者を2回に分けて歯科医師会館3Fで行われました。

折角の日曜日、しかも晴天に恵まれて、講師の方々、受講者の皆さんには、お気の毒な気もしましたが、朝9時半から昼食をはさんで午後4時半まで、ベテランの方は余裕をもちながら、又初心者はいかに夫々熱心に説明や、実習に研修を受けていました。

練和、混和、重合、鋳造等の操作によって初めて完成の半製品の宿命をもった歯科材料、より満足な結果を得る為には、その特性を十分理解し、夫々の材料に応じた正しい合理的使用法を心得て、口腔内の特殊環境の中で夫々の機能を十分発揮できるよう心懸けていたときたいものです。

研修会の成果が、毎日の地域社会医療の為に十分活用される事を期待しています。

最後に二回に亘り終日御指導下さったGCの講師の方々、熱心に受講された参加者の皆様、終了後、後仕末にお世話になった職員の原口さ

ん、御協力下さった各院長先生方に厚く御礼申し上げます。

実習項目

16ミリ映画

歯内療法臨床実技、その他

実 技 A、印象材

1. アルギン酸
2. ビニールシリコンのパテタイプ、インジェクションタイプの連合印象
3. 寒天とアルギン酸との連合印象

B、充填材

1. アマルガム
2. コンボジット
3. グラスアイオノマー
4. ミキサーの取り扱い方 (G・C製)

C、セメント

計量、練板の使用法、温度に対する配慮、練和法等。

学術委員 野 村 記



パンダ見物

(福岡動物園)



昭和55年度 熊本市歯科医師会 厚生委員会による恒例のレクレーションとして、バスハイクによるパンダ見物が5月25日(日)、会員の先生30名、家族従業員210名、総数240名の多くの参加者を得て行なわれた。

午前8時半市民会館前集合、貸切バス5台に分乗し小雨模様の中9時に出発、九州自動車道を経て動物園に11時半に到着、その後昼食の頃には天気も回復し、パンダの前では行列になっていた見物であった。





昭和54年度

社団法人 熊本市歯科医師会通常総会報告

と き 昭和55年3月27日(木) 午後7時30分

ところ 熊本県歯科医師会館

1. 開 会

山室先生より委任状の報告があり

出席39名、欠席(委任状)101名とい
うことで総会成立

2. 物故会員に対する黙禱

3. 会長挨拶(川崎先生会長代行で挨拶)

4. 議長選出

執行部一任により渡辺益雄先生

5. 議事録署名人選出

議長一任により議事録署名人に
牧野敬美先生、渡辺太郎先生

6. 会務報告

山室専務理事より会員の現況ならびに54
年度の主要業務について報告

質問なし

7. 会計報告

昭和54年度熊本市歯科医師会才入才出予
算現況報告ならびに共済会現況報告
宇都宮常務理事より詳細に説明

質問なし

8. 監査報告

杉野監事より監査報告あり

9. 代議員議長審議経過報告

代議員議長 坂元一夫先生より報告

10. 議 事

1. 昭和53年度才入才出決算書の承認を求
むるの件 (承認)

2. 昭和53年度熊本市歯科医師会共済会決
算書の承認を求むるの件 (承認)

3. 昭和53年度熊本市歯科医師会退職積立
金決算書の承認を求むるの件 (承認)

4. 昭和53年度熊本市歯科医師会剰余金処
分計算書の承認を求むるの件 (承認)

5. 昭和55年度事業計画案 (承認)
各委員会から発表された。

6. 昭和55年度熊本市歯科医師会才入才出
予算案 (承認)

7. 昭和55年度会費および負担金の賦課徴
収方法について (承認)

8. 県歯代議員(補充)の選出 (承認)

9. 財産(備品)目録の承認を求むるの件
(承認)

11. 協 議

・公私立病院勤務医の入会について

・参議員選挙の協力についてお願い

12. 閉 会

昭和55年度

社団法人 熊本市歯科医師会臨時總會報告

と き 昭和55年5月23日（金） 午後7時30分
ところ 熊本県歯科医師会館 3階ホール

1. 開 会

山室専務理事より出席者88名、委任状84通という報告があり、以上により総会成立
2. 物故会員に対する黙禱
3. 会長挨拶

会長代行の川崎正士先生挨拶
4. 議長選出

執行部一任により議長に渡辺益雄先生
5. 議事録署名人選出

議長一任により議事録署名人に片山幹夫先生、山村定信先生
6. 会長選挙

選挙管理委員長の伊東先生より経過報告があり、無投票により会長に川崎正士先生が選出された。
7. 閉 会

昭和54年度 会 務 報 告

年月日	行 事 内 容	年月日	行 事 内 容
54. 4.10	理事会	54. 5.14	支部長会
18	口腔衛生委員会	15	資格審議会
19	社保委員会	17	理事会
24	医療管理委員会	18	学術委員会
25	厚生委員会	21	広報委員会
26	学術委員会	22	医療管理委員会
	北部1支部会	24	西部支部会
27	広報委員会	26	よい歯のコンクール本審査
28	学校歯科委員会	28	学術委員会
		29	資格審議会
5. 7	学校歯科委員会	30	厚生委員会
11	南部支部会		

年月日	行 事 内 容	年月日	行 事 内 容
54. 6. 4	歯の衛生週間 ※ 4 日～ 1 0 日	54. 9.10	川尻・北部 2 ・小島・東部 3 合同支部会
10	歯の祭典	11	南部・北部 1 ・東部 2 合同支部会
12	医療管理委員会	12	東部 1 ・東部 4 ・中央 合同支部会
16	医療管理講演会	13	西部支部会
17	補助者研修会		広報委員会
18	広報委員会	19	資格審議会
21	学術委員会	20	理事会
25	社保委員会	22	学校歯科・口腔衛生合同委員会
26	厚生委員会	25	医療管理委員会
28	理事会		学術委員会
	北部 1 支部会	27	代議員会
7. 1	補助者研修会	10.4	医療管理委員会
5	学術委員会	5	学校歯科委員会
17	理事会	12	社保委員会
20	資格審議会	16	理事会
26	学術委員会	18	学術委員会
27	広報委員会	24	学校歯科委員会
30	口腔衛生委員会	25	医療管理委員会
8.10	学術講演会		北部 1 支部会
16	医療管理委員会	30	臨時理事会
17	資格審議会	11.5	広報委員会
20	社保委員会	7	口腔衛生委員会
23	理事会	8	学術委員会
24	口腔衛生委員会		資格審議会
31	学校歯科委員会	13	理事会
9. 3	支部長会	14	歯みがき訓練 ※ 14 ～ 16 日
7	厚生委員会	18	無料検診
10	監 査	20	学術委員会
		22	医療管理委員会

年月日	行 事 内 容	年月日	行 事 内 容
54.11.29	学術委員会	55. 2.15	東部 3 支部会
30	学術講演会	16	懇親パーティー
12. 6	広報委員会	18	東部 1 支部会
7	学術講演会	19	理事会
13	西部支部会		西部支部会
14	北部 1 支部会	20	小島・北部 1、2 支部会
17	資格審議会	21	東部 2 支部会
18	学術委員会	22	川尻・南部支部会
20	学校歯科・口腔衛生合同委員会	26	中央部支部会
	広報委員会	28	医療管理委員会
21	理事会	29	広報委員会
26	社保委員会	3. 7	学術委員会
55. 1.11	学術委員会	13	監 査
	厚生委員会	15	学術講演会
16	資格審議会	17	理事会
17	確定申告説明会	19	代議員会
19	学術講演会	25	資格審議会
21	医療管理委員会	26	医療管理委員会
22	理事会		学校歯科・口腔衛生合同委員会
24	広報委員会	27	総 会
29	社保委員会		
31	広報委員会		
2. 5	学術委員会		
7	支部長会議		
8	厚生委員会		
13	予 算		
	東部 4 支部会		
15	資格審議会		

昭和54年度 庶務報告

- (1) 現在会員数 233名
 一般会員 183名
 親子会員 19名
 終身会員 25名
 勤務会員 6名

(2) 入会者名

大嶋 健一	熊本市坪井2丁目5-9	北部1
三 筈 司	熊本市手取本町8-5	中央
森 山 一彦	熊本市国府3丁目11-8	東 2
弥 永 康 博	熊本市本荘6丁目17-27	南部
村 上 辰 郎	熊本市手取本町5-1	中央

(3) 物故者

奥 田 健 治	熊本市本山町353
宇 治 誠 孝	熊本市水前寺公園15-31
北 原 信 英	熊本市坪井5丁目5-21

(4) 退会者

本 多 信 徳	熊本市水前寺6丁目37-24
---------	----------------

昭和54年度

熊本歯科医師会共済会歳入歳出現況

収入額 2,757,770

支出額 740,000

残 高 2,017,770

才入の部	金 額	才 出 の 部	金 額
共済会費負担金	1,374,000	弔慰金（奥田健治先生分）	300,000
初 回 金	6,000	〃（宇治誠孝先生分）	300,000
利 息	23,130	〃（石浦節子先生御尊父様）	20,000
前年度繰越金	1,354,640	〃（寺脇 博先生御母堂様）	20,000
		見舞金 緒方 義弘先生	20,000
		大橋 俊博先生	20,000
		後藤 俊一先生	20,000
		花環代	40,000
	2,757,770		740,000

昭和54年度 熊本市歯科医師会歳入歳出現況

収入済額 27,233,105

支出済額 13,637,832

残 高 13,595,273

(才入の部)

款	項	費 目	予 算 額	調 定 額	収 入 済 額	未 収 額	備 考
1		会 費	12,304,820	13,351,635	13,332,635.	19,000	
	1	均 等 割	2,050,000	2,059,000	2,040,000	19,000	村上 5,000 高島 1,000 谷川 1,000 弥永 5,000 森山 2,000 渡辺 5,000
	2	保険診療負担金	6,254,820	6,292,635	6,292,635		診療報酬 1,000
	3	入 会 金	4,000,000	5,000,000	5,000,000		新入会 5 名
2		寄 付 金	3,954,356	9,936,000	9,936,000		簡易保険 5/7
3		過 年 度 会 費	0				
4		雑 収 入	4,414,990	3,964,470	3,964,470		
	1	預 金 利 子	95,352	157,741	157,741		富士銀行、肥後銀行
	2	雑 入	4,319,638	3,806,729	3,806,729		生命保険手数料
5		前年度繰越金	0		0		
		計	20,674,166	27,252,105	27,233,105		

(才出の部)

款	項	費 目	予 算 額	支 出 済 額	予 算 残 額	備 考
1		事 業 費	8,212,000	5,575,032	2,636,968	
	1	学 術 費	1,500,000	1,199,948	300,052	学術講演会謝礼(3回) 210,000 交通費 67,560 諸経費 160,000 よい歯のコンクール 60,570 フッソ塗布材料代 304,600 無料検診 246,600
	2	口 腔 衛 生 費	700,000	927,645	227,645	社保説明会
	3	社 会 保 険 費	600,000	242,540	357,460	市内地図 20,000 講演会 96,050
	4	医 療 管 理 費	752,000	326,050	425,950	会誌代 511,500 会誌御礼 30,000
	5	広 報 費	2,000,000	866,610	1,133,390	麻雀大会 117,000 懇親パーティー支払 929,420 パーティー賞品代 81,000
	6	厚 生 費	1,600,000	1,229,084	370,916	歯みがき訓練 118,155 全日本学校保健研究大会 71,000 全日本学校歯科保健大会 67,800
	7	学 校 歯 科 費	610,000	533,455	76,545	開業委員会
	8	各 種 委 員 会 費	300,000	153,000	147,000	
	9	医 政 費	150,000	96,700	53,300	
2		事 務 費	5,677,220	4,316,224	1,360,996	
	1	渉 外 費	630,000	173,470	456,530	
	2	俸 給	1,963,200	1,750,100	213,100	
	3	諸 給 与	1,142,020	1,114,359	27,661	
	4	旅 費	270,000	53,000	217,000	
	5	需 用 費	1,000,000	786,395	213,605	電話代、通信費他
	6	事 務 所 費	72,000	66,000	6,000	
	7	備 品 費	200,000	7,400	192,600	ハガキ謄写版
	8	雑 費	400,000	365,500	34,500	
3		会 議 費	3,372,000	3,123,640	248,360	理事会旅費、車代他、会議費
4		職 員 厚 生 費	660,000	622,936	37,064	
	1	退 職 積 立 金	360,000	330,000	30,000	
	2	厚 生 費	300,000	292,936	7,064	
5		予 備 費	2,752,946		2,752,946	
		計	20,674,166	13,637,832	7,036,334	

昭和55年度 熊本市歯科医師会歳入歳出予算(案)

(才入の部)

款	項	費 目	本年度予算額	前年度予算額	比 較		備 考
					増	減	
1		会 費	11,909,797	12,304,820		395,023	一般 181名×10,000 終身 26名×4,000 親子 17名× 5,000 入会金 1,000,000×3名 前年度会費未収入金 利 息 簡易保険、朝日生命、日専連
	1	均 等 割	2,039,000	2,050,000		11,000	
	2	保険診療負担金	6,870,797	6,254,820	615,977		
	3	入 会 金	3,000,000	4,000,000		1,000,000	
2		寄 付 金	1,000	3,954,356		3,953,356	
3		過 年 度 会 費	0	0			
4		雑 収 入	5,422,391	4,414,990	1,007,401		
	1	預 金 利 子	117,915	95,352	22,563		
	2	雑 入	5,304,476	4,319,638	984,838		
5		前年度繰越金	5,312,495	0	5,312,495		
		計	22,645,683	20,674,166	7,943,274	5,359,379	

(才出の部)

款	項	費 目	本年度予算額	前年度予算額	比 較		備 考
					増	減	
1		事 業 費	8,410,000	8,212,000	198,000		学術講演会 よい歯のコンクール、無料検診 フッソ塗布 保険指導 講 演 会 会 誌 レクリエーション、バレーボール 懇親パーティー 児童歯ブラシ指導 開業会員審議
	1	学 術 費	1,750,000	1,500,000	250,000		
	2	口 腔 衛 生 費	750,000	700,000	50,000		
	3	社 会 保 険 費	680,000	600,000	80,000		
	4	医 療 管 理 費	780,000	752,000	28,000		
	5	広 報 費	1,800,000	2,000,000		200,000	
	6	厚 生 費	1,600,000	1,600,000			
	7	学 校 歯 科 費	700,000	610,000	90,000		
	8	各種委員会費	200,000	300,000		100,000	
	9	医 政 費	150,000	150,000			
2		事 務 費	6,273,520	5,677,220	596,300		給 料 夏冬ボーナス、交通費、時間外手当 電 話 代、切手代、印刷、文具、茶 事務所借上料 熊本税理士嘱託料、県民税、広告料 事務服 理事会旅費、代議員旅費、監査旅費 タクシー代、支部奨励金
	1	渉 外 費	650,000	630,000	20,000		
	2	俸 給	2,011,200	1,963,200	48,000		
	3	諸 給 与	1,170,320	1,142,020	28,300		
	4	旅 費	270,000	270,000			
	5	需用 費	1,200,000	1,000,000	200,000		
	6	事 務 所 費	72,000	72,000			
	7	備 品 費	200,000	200,000			
	8	雑 費	700,000	400,000	300,000		
3		会 議 費	3,564,400	3,372,000	192,400		
4		職 員 厚 生 費	643,583	660,000		16,417	健康保険、厚生年金、児童手当、 労働保険、福祉費
	1	退職積立金	360,000	360,000			
	2	厚 生 費	283,583	300,000		16,417	
5		予 備 費	3,754,180	2,752,946		1,001,234	
		計	22,645,683	20,674,166	2,081,000	1,334,068	

昭和55年度 会費及び負担金の賦課額・賦課率 並びにその賦課徴収方法

科 目		年賦課額・賦課率	賦 課 方 法	徴 収 方 法	前年度の比較
会 費	均等割(一般)	10,000	5 回	4月・5月・6月・7月・8月 (2,000円)	変 ら ず
	〃 (終身)	4,000	4 回	4月・5月・6月・7月・ (1,000円)	〃
	〃 (勤務・親子)	5,000	5 回	4月・5月・6月・7月・8月 (1,000円)	〃
	所得割	$\frac{1}{1,000}$	12 回	毎月(社保・国保診療報酬)	〃
入 会 金	一 般	1,000,000	1 回(中度中)	入 会 の 都 度	700,000 円増
	親 子	1,000,000	1 回(中度中)	入 会 の 都 度	〃
共 済 会	初 回 金	2,000	1 回	入 会 の 都 度	変 ら ず
	負 担 金	2,000	死亡された都度	死 亡 さ れ た 都 度	〃

熊本市歯科医師会 財産(備品)目録

種 別	数 量	種 別	数 量
書 類 棚	6	扇 風 機	1
書 類 立	4	電 話 器	1
事 務 用 机	2	冷 蔵 庫	1
〃 い す	2	ハ ガ キ 用 膳 写 機	1
金 庫	1	チ エ ッ ク ラ イ タ ー	1
テ ー ブ ル (白)	4	え ん び つ 削 り	1
会 議 用 い す	12	掃 除 機 (手動)	1
応 接 セ ッ ト	1	印 鑑	
ロ ッ カ ー 2 人 用	1	書 籍	
ツ イ タ テ	2	傘 立	
ラ ジ オ	1	ス ト ー プ	
カ セ ッ ト	1	ワ イ ヤ レ ス マ イ ク	1
時 計	1	電 卓	1
オーバーヘッド プロジェクター	1	カ ッ タ ー	2
ビデオカセット VO 1720	1	カ メ ラ 一 式	1
トリニロンカラーテレビ KV 2050			
M 1	1		

54年度購入物

- 事務用いす 2脚
- ハガキ用膳写機
- 電 卓

剰余金処分計算書

1. 当期剰余金	13,430,196
2. 剰余金処分額	
基本財産積立金	5,000,000
3. 寄付金	8,430,196

以上のとおり処分いたします。

新 入 会 員 紹 介



氏 名 出来田 悌 吾 昭和 27 年 6 月 6 日生
 自 宅 熊本市安政町 2 - 15 (TEL) 52-1784
 診療所 熊本市黒髪町 2 丁目 16-15 (TEL) 43-5231
 黒髪歯科クリニック
 趣 味 盆 栽
 経 歴
 昭和 52 年 3 月 愛知学院大学歯学部卒業
 昭和 55 年 4 月 黒髪歯科クリニック

家族構成

出来田 実 吉 明治 27 年 6 月 10 日 祖父
 前 田 定 昭和 1 年 1 月 1 日 父
 前 田 実 子 昭和 1 年 2 月 2 日 母
 前 田 貴 子 昭和 30 年 9 月 26 日 妹



氏 名 緒 方 敏 克 昭和 27 年 1 月 12 日生
 自 宅 熊本市出町 4 - 10 (TEL) 52-7023
 診療所 熊本市清水町山室字辻 426 - 1 (TEL) 45-1766
 緒方歯科医院
 趣 味 スポーツ
 好きなことば
 特になし

経 歴 昭和 45 年 3 月 熊本商大附属高校卒業
 昭和 51 年 3 月 神奈川歯科大学卒業
 昭和 51 年 4 月 同大 口腔外科教室助手
 昭和 54 年 4 月 星谷歯科勤務
 昭和 55 年 6 月 開 業



氏 名 村 上 辰 郎 昭和27年7月13日生
 自 宅 熊本市田迎町田迎414番地 (TEL) 78-2723
 診療所 熊本市手取本町5-1 (TEL) 25-5645
 渡辺歯科医院

趣 味 釣り

経 歴

昭和46年3月 熊本商大付属高等学校卒業
 昭和52年3月 神奈川歯科大学卒業
 昭和54年6月 福岡歯科大学保存科勤務
 昭和54年7月 渡辺歯科勤務。現在に至る。

家族構成

村 上 明 郎 大正12年6月6日 父
 村 上 節 子 大正15年3月3日 母
 村 上 明 文 昭和24年4月6日 兄
 村 上 常 道 昭和29年2月19日 弟



氏 名 弥 永 康 博 昭和23年1月31日生
 自 宅 熊本市本山町字城ノ中551の2
 診療所 熊本市本荘6-17-27
 (富田歯科)

趣 味 読 書

経 歴

昭和42年 明善高等学校卒業
 昭和51年 日本大学歯学部卒業
 昭和51年4月～53年3月 福岡歯科大保存科勤務
 昭和55年3月～55年11月 富田歯科勤務

家族構成

弥 永 秀 康 大正5年7月21日 父
 弥 永 ハルヨ 大正7年3月17日 母



氏 名 伊 藤 友 己 昭和 23 年 1 月 3 日生

自 宅 熊本市近見町 2755 (TEL) 25-6565

診療所 同 上 (TEL) 同 上

趣 味 読書、旅

好きなことば

特になし

経 歴

昭和 49 年 3 月 九州歯科大学卒業

昭和 49 年 4 月 福岡市福泉歯科勤務

昭和 50 年 6 月 宇治歯科勤務

昭和 55 年 3 月 同上退職

現在地にて開業

家族構成

伊 藤 美知子 昭和 28 年 12 月 14 日生 妻

" 和 之 昭和 52 年 8 月 20 日生 長男

— 編集後記 —

平年並みの秋らしい季節となりましたが、外国ではアルジェリアの大地震、イランとイラクの戦争、これから寒くなるのに石油のことが心配です。日本では大仏さんの前でラインダンス、平和なのでしょうか。

御寄稿頂きました方々には、厚く御礼申し上げます。少しでも多くの先生方に会誌をお読み頂く様にと、広報委員一同努力致しております。どうぞ今後共御協力下さいます様お願い申し上げます。

広報委員会

熊本市歯科医師会会誌

第 34 号

発行日 昭和 55 年 10 月 25 日発行

発行所 熊本市歯科医師会

熊本市坪井 2 丁目 3 番 6 号

TEL (43) 6669

発行責任者 川 崎 正 士

印刷所 株式会社 太 陽 社

熊本市新大江 2 丁目 5 - 18

TEL (66) 1251